

# 令和元年度 横浜市立谷本小学校 「交通バリアフリー教室」の実施報告

## はじめに

- 横浜市都市整備局では、福祉の視点からバスへの関心を啓発し、利用を促進するため「交通バリアフリー教室」を行っています。谷本小学校では、東急バスと連携し実施しました。
- 谷本小学校は、東急田園都市線 藤が丘駅を最寄り駅とし、近くには、東急バス「谷本小学校」と神奈中バス「谷本小学校入口」のバス停があります。

## 1 交通バリアフリー教室の全体概要

- 交通バリアフリー教室は、横浜市都市整備局が担当する「バスのバリアフリー」に関する座学とともに、東急バスが担当する、「車いすの利用・介助体験」及び「視覚障害者の体験・介助体験」をクラスごとに行いました。
- 横浜市都市整備局は、①の座学において、**バスのバリアフリーの現状や、モビリティマネジメントの大切さ等、バリアフリーを始め、バスに関する様々な“知識”**を伝えました。
- 東急バスは、バス車両を用いて、バスのバリアフリーについての体験授業を行いました。
- 実際の“体験”を行うことで、これからの生活の中で「活かした知識」として子どもたちに根付くことを期待します。

### ■交通バリアフリー教室について

【日時】 令和元年12月5日(木)  
第1～4校時(8:50～12:15)

【対象】 横浜市立谷本小学校  
5年生1～3組(76名)

【内容】 ①バスのバリアフリーに関する座学  
②バスを用いた車いす利用体験・介助体験  
③視覚障害者への介助体験  
→クラスごとに分かれて実施



バリアフリーに関する座学



東急バスの車両



車いす利用・介助体験

## 2 「バスのバリアフリーに関する座学」の内容

- 座学では、「もっと知ってほしい バスのこと」と題して、車いすの方もお年寄りも、「誰もが使いやすい」を目指して取り組んできた、**バスのバリアフリーの現状**を中心に授業を行いました。
- 子どもたちは、藤が丘駅に行くときは歩いていくことも多いようですが、バスを利用する子もいました。クラスの半数近くが、塾や習い事などに行くときなど、日常的にバスを利用しているようでした。
- バスの利用者が減少していくと「**バスが将来、無くなってしまう**」可能性もあることを、マンガリーフレットを用いて伝えました。
- 成長していく過程の中で「**便利なクルマに頼りすぎず、今と同じように、バスで行ける所はバスで行くこと**」を日頃から心掛け、家族や友人などと少しずつ実践してほしいことを伝えました。
- 将来的にバス事業が継続していくためにも、「**行き先や状況に応じて、バスを上手に使って暮らす**」ことが大切であることを伝え、授業を終えました。

### ■座学に用いた教材

①説明用パワーポイント:もっと知ってほしい「バス」のこと



②小学生向けマンガリーフレット



## おわりに

- 交通バリアフリー教室を経験して、**車いすで移動することの大変さ**とともに、**移動の介助の難しさ、大変さ**を肌にした子どもたちがたくさんいました。
- 視覚障害者への介助体験では、「もうちょっと」、「もう少し右」といったあいまいな指示より、「15cmの段差がある」など、具体的な数字で示したほうが良いことに気づいていました。
- 今回のバリアフリー教室により、子どもたちがバスへの関心をもち、**これからもバスを上手に使い、またバスで困っている人をサポートする**きっかけとなることを期待します。
- また、運転席に座ったり、客席に座ったりして、東急バスの職員や運転士さんと積極的に交流するなど、バリアフリーの事だけでなく、バスの様々なことを学んでいました。
- 子どもたち自身もいつも以上にバスを身近に感じてくれた1日になったと思います。

